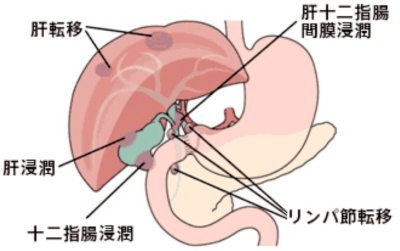
GSC
合田外科新聞
ホームページ　www.godageka.jp
ブログ　www.kiyoshi-goda.cocolog-nifty.com/jp

平成27年1月
第71号
合田外科
TEL　0797-71-2132
FAX　0797-74-1430

最近の話題：がん放置療法

近藤誠という名前を耳にしたことはありませんか？元慶應大学医学部の放射線科の医師ですが、この方の言動が非常に大きな物議を醸しています。元々この方はがんの放射線治療の専門家で、特に乳がんにおける乳房温存療法のパイオニアでした。今日のように乳房温存療法が主流となるはるか以前から、それまで広く行われていた乳房を切除する手術療法を否定していたので、確かに先見の明はあるとは言えますが、その後に極端な主張を展開され現在に至っています。彼の主張は次のようなものです。即ち、「がんには臓器転移があるがん【＝本物のがん】と臓器転移がないがん【＝がんもどき】があり、本物のがんなら既に転移していて手術や抗がん剤治療をしても治らず、かえって命を縮めてしまうので治療は無駄である。一方、がんもどきは放っておいても転移をしないので、治療の必要がない。治療を受けなければ本物のがんでもがんもどきでも手術や抗がん剤で命を縮めることがなく、治療を受けた場合より長生きすることができる。」この主張はいかがでしょうか？人間の体の中では毎日多くの癌細胞が生じていますが、その大部分は私達自身の免疫力で処理されてしまいますので、がんの中には進行せずにそのまま留まっているものや自然に消滅してしまうものがないとは言い切れません。しかし胃がんや大腸がんの経過を内視鏡で観察していると、多くの早期がんは進行していきます。仮に【がんもどき】が実在するとしてもそれを見分ける方法はありません。結果としてこのような状態で何もしないで放置すると助かった命を失うことになります。また転移があるような進行がんの予後が悪いのは確かですが、がんの種類や転移の場所によっては完全に治癒が見込めることも稀ではありません。手術にしても抗がん剤や放射線治療にしても、がんの治療は決して楽なものではありません。このような時に何もしないでいいという「がん放置療法」にすがりたくなる患者さんの気持ちはよく理解できますが、がんを放置して悲惨な状態になった方が大勢いらっしゃいます。近藤理論に簡単に飛びつかないようにして下さい。

病気の知識：胆嚢の病気：② 胆嚢がん



胆嚢にできるがんを胆嚢がんと言います。原因は不明ですが、胆石と関連があると考えられています。特異的な症状はありませんが、右の上腹部痛や悪心・嘔吐が比較的よく見られます。胆嚢は肝臓や十二指腸の近傍にあるので、胆嚢がんはこのような周辺の臓器に進展しやすいがんと言えます。早期に発見するのが難しいがんの一つです。治療は手術が基本となりますが、進展の具合によっては肝臓を切除したり十二指腸を切除する場合もあります。胆石がある方は胆嚢がんの可能性も考えて定期的に検査を受けるようにして下さい。

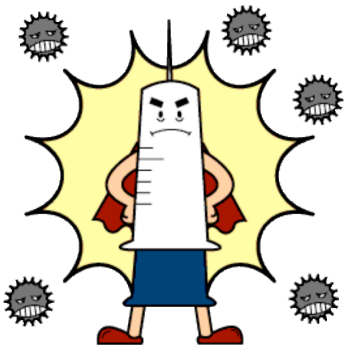
医院よりのお知らせ

①新年のご挨拶

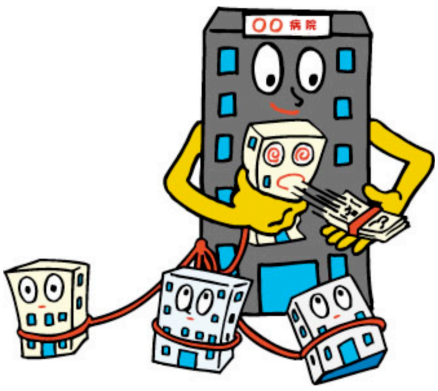
皆様、あけましておめでとうございます。昨年は大変にご贔屓にして頂きまして、誠にありがとうございました。今年も羊頭狗肉の看板倒れにならないよう頑張りたいと思います。どうか宜しくお願い申しあげます。さて、昨年を振り返りますと、１月からの理研のスタップ細胞騒動、４月の消費税アップ、７月の集団的自衛権閣議決定、９月のテニスの錦織選手の活躍や御嶽山噴火、１０月の日本人ノーベル物理学賞受賞、１２月の衆議院解散総選挙など多くの出来事がありました。皆様にとってはどのような一年間でしたでしょうか？悲喜こもごも色々なことがあったことと思いますが、新たな気持ちで前向きに過ごしていきましょう。無理せずぼちぼちと・・・そんな感じで気を楽にして、あんまりくよくよしないでいきましょう！！

②インフルエンザ・肺炎球菌の予防接種はもう済みましたか？

今シーズンはインフルエンザの流行入りが早く、昨年１２月中旬より宝塚市内でも小中学校の学級閉鎖が相次いでいます。年明けより更に流行が本格化すると考えられますので、まだインフルエンザの予防接種がお済みでない方はすぐに受けるようにしましょう。高齢者が１０００円で受けられる定期接種は１月末までですが、任意での接種はそれ以降でも可能です。もし期間内に受けることが困難な方はご相談下さい。また昨年より肺炎球菌の予防接種が定期化され、該当の方にはクーポン券が送付されています。インフルエンザから肺炎になったり、また非常に流行している乳幼児のＲＳウイルスでも高齢者は肺炎になりえますので、クーポン券のある方は必ず接種するようにしましょう。３月末までとなっています。今回クーポン券が届いていない方でも、実費による任意接種は可能ですので、心配な方はご相談下さい。



今そこにある危機：⑬ 新型医療法人



衆議院選挙で自民党が大勝したことより、アベノミクスもますます加速されることと思われます。特に第三の矢と言われている成長戦略に焦点が当てられることでしょう。医療の分野でも新しい法人制度として、非営利ホールディングカンパニー型法人（仮称）というものが構想されています。これは政府の産業競争力会議で議論されているもので、複数の医療法人や社会福祉法人を束ねて一体化し、経営の効率化を図ろうというものです。最近、色々な分野で持ち株会社（ホールディングカンパニー）が設立されていますが、それの医療版と言えます。確かに資金調達が容易になったり、高額医療機器の共有化ができたりなどメリットはあるでしょうが、アメリカの病院チェーンのように「非営利」と謳いつつ営利企業化するのではないかと危惧されます。

合田外科新聞

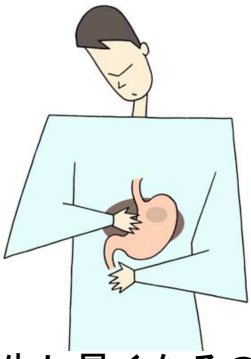
GSC

ホームページ　www.godageka.jp
ブログ　www.kiyoshi-goda.cocolog-nifty.com/jp

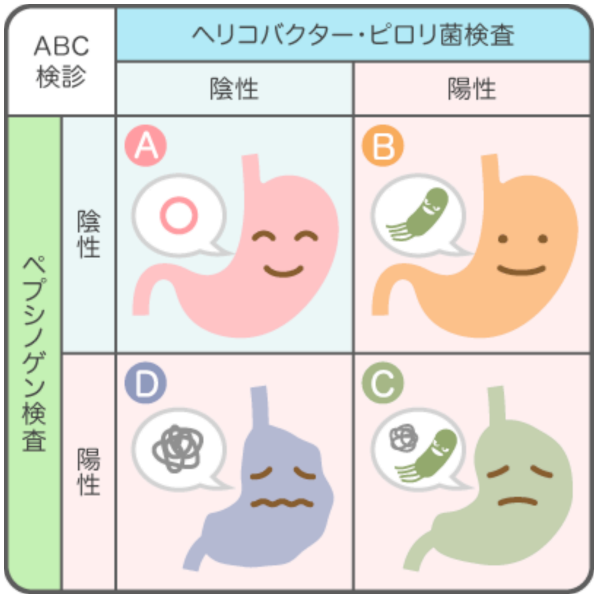
平成27年4月
第72号

合田外科
TEL　0797-71-2132
FAX　0797-74-1430

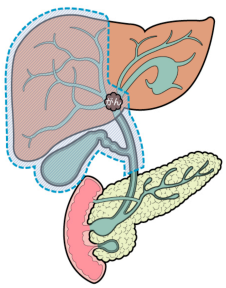
最近の話題：胃がんリスク検診



今年度より宝塚市で胃がんリスク検診が始まります。今回はこの新しい検診についてご説明致します。現在、日本人の死亡原因の第１位はがんですが、胃がんが多いことが特徴的です。死亡者数こそ肺がんに次いで第２位になりましたが、罹患数（発生数）では依然として日本で第１位のがんです。胃がんになる主な危険因子（リスク）としてピロリ菌という細菌の感染が挙げられます。ピロリ菌が感染すると胃粘膜の萎縮が進み（胃炎）、胃がんが発生し易くなるのです。さて胃がんのリスク検診ですが、これは「ピロリ菌感染の有無を調べる検査」と「胃炎の有無を調べる検査（ペプシノゲン検査）」を組み合わせて、胃がんになり易いか否かのリスク（危険度）を分類するもので、決して「がんを見つける検査」ではありません。つまり「胃がんになる危険度が極めて低い人（超低リスク群）」を精密検査から除外し、「危険度の高い人」には胃がんがないかどうかを確かめるための内視鏡による精密検査を受けてもらうためのとっかかりの検査です。この検診の結果はＡ～Ｄの４つのグループに分類されます。即ち、Ａ群はピロリ菌の感染がなく、胃粘膜の萎縮もない群で、胃がんが発生するリスクは殆どありません。Ｂ群はピロリ菌の感染はありますが胃粘膜の萎縮が進んでいない群で、年間の胃がん発生頻度は１０００人に１人程です。Ｃ群はピロリ菌の感染があり胃粘膜の萎縮も進んだ群で、年間の胃がん発生頻度は５００人に１人程です。Ｄ群は胃粘膜の萎縮が進んでピロリ菌が住めなくなった群で、年間の胃がん発生頻度は８０人に１人程と高率です。Ｂ～Ｄ群の場合には内視鏡による精密検査が必要です。リスクを見極めて、早期に胃がんを見つけましょう。



病気の知識：胆管の病気：① 胆管がん



胆管がんは胆汁の通り道である胆管に発生します。発生頻度はそれほど多くはありませんが、男性が女性の約２倍で、男女とも５０～６０歳代に比較的多く見られます。初期には症状はありませんが、がんが進行して胆管が塞がれると黄疸の症状が出てきます。治療は外科的切除が基本で、唯一根本的に治しうる治療法ですが、進行している場合が多く、手術が難しい場合もよくあります。肝臓に近い上部の胆管にできるほど予後が悪く、抗がん剤を用いた化学療法や放射線療法を組み合わせても、５年生存率は２０～３０%と低い難治性のがんです。

医院よりのお知らせ

①健診・検診が始まります！！

４月より平成２７年度の健診・検診が始まります。当院では宝塚市国民健康保険特定健康診査（メタボ健診）と高齢者の方の宝塚市後期高齢者健康診査を行います。対象の方には宝塚市より案内状が届きますのでお持ち下さい。またがん検診として、従来行っている肺がん検診・大腸がん検診・肝炎ウィルス検診・前立腺がん検診に加え、今年度より胃がんリスク検診が始まります。当院でも行っていますので、対象の方は合わせて受診して下さい。

検診種類	期間	対象	内容	料金
宝塚市国民健康保険特定健康診査	H27/4/1～H28/2/29	４０歳～７４歳の宝塚市国民健康保険加入者	身体計測・血液検査・尿検査等	無料
宝塚市後期高齢者健康診査	H27/4/1～H28/2/29	７５歳以上の宝塚市民で兵庫県後期高齢者医療加入者	身体計測・血液検査・尿検査等	無料
肺がん検診	H27/4/1～H27/6/30 H27/9/1～H27/11/30	４０歳以上の宝塚市民	胸部レントゲン撮影	５００円
大腸がん検診	H27/4/1～H28/2/29	４０歳以上の宝塚市民	検便（便潜血検査）	５００円
肝炎ウィルス検診	H27/4/1～H28/2/29	４０歳以上の宝塚市民で過去に肝炎検診未受診の方	血液検査（肝炎ウィルス）	１２００円
前立腺がん検診	H27/4/1～H28/2/29	５０歳以上の宝塚市民（男性）	血液検査（腫瘍マーカー）	１０００円
胃がんリスク検診	H27/5/1～H28/2/29	４０・４５・５０・５５歳でクーポン券の届いた方	血液検査	２０００円

（注）肺がん検診・大腸がん検診・肝炎ウィルス検診は市民税非課税世帯・７０歳以上・宝塚市国民健康保険加入者・生活保護世帯は無料です。また前立腺がん検診・胃がんリスク検診は生活保護世帯は無料です。

②新型リハビリ器の導入に関して

昨年末よりリハビリ室に新しい電気治療器のデモ器を設置し、ご来院の皆様に試して頂いておりましたが、ご好評につき、この度正式に導入する運びとなりました。オージー技研製のフィジアス２５０という器械で、一台で低周波と中周波・干渉波による治療が可能です。低周波は神経や筋にパルス状の刺激を与え、また皮膚抵抗の少ない中周波を体内で干渉させて深部の筋を刺激することができ、痛みの緩和や筋委縮の改善が期待されます。特に腰痛や肩凝りに効果がありますので、是非ご活用下さい。

今そこにある危機：⑭ 健康格差

最近、フランスの経済学者、トマ・ピケティ氏の著書「２１世紀の資本」が世界的に話題になっています。この本の中でピケティ氏は、資本主義社会における貧富の格差を多くのデータを用いて実証しています。この本がベストセラーになっていることより、世界中で多くの人々が格差問題に関心を抱いていることがうかがえます。日本でも数年前から「貧富の格差」が「命の格差」を生む「健康格差社会」が始まっていると言われています。つまり、低所得の人ほどお金がないために医療機関の受診を控え、その結果、健康状態が悪化してしまう訳です。６５歳以上で要介護認定を受けていない人を４年間追跡調査したところ、その間に死亡した男性高齢者は、高所得の人が１１％なのに対して、低所得の人はその３倍の３４％にも及んでいたという報告もあります。まさに「命の沙汰も金次第」という世の中ですが、皆さんはこのような格差社会を許容できますか？

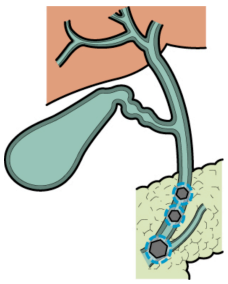
GSC
合田外科新聞
ホームページ　www.godageka.jp
ブログ　www.kiyoshi-goda.cocolog-nifty.com/jp

平成27年7月
第73号
合田外科
TEL　0797-71-2132
FAX　0797-74-1430

最近の話題：神戸市生体肝移植手術後死亡多発問題

最近、神戸市での生体肝移植手術後の死亡例に関して、テレビや新聞などマスコミで盛んに報じられています。今回はこの問題を取り上げてみます。手術を行っているのは、ＫＩＦＭＥＣ（神戸国際フロンティアメディカルセンター病院）という２０１４年に、神戸市のポートアイランドに開院した民間病院です。この病院はほぼ生体肝移植に特化した病院として開設されました。このような特異な病院ができた背景には、実は神戸市の無謀とも言える政策があったのです。１９９５年の阪神・淡路大震災で大きな損害を被った神戸市は、震災復興事業として「神戸医療産業都市構想」を打ち出しました。これはポートアイランドに医療を核とした企業や研究施設を集積し、経済活性化の切り札にしようというもので、ゆくゆくはアジアを中心とする海外との交流の拠点にしようという壮大なプロジェクトでした。神戸市はこのために、２０００年に理化学研究所発生・再生科学総合研究センター（ＣＤＢ）を誘致し、２０１１年には、まださほど老朽化していなかったにもかかわらず神戸市立医療センター中央市民病院を沖合に移転させました。更に２０１２年には理化学研究所のスーパーコンピューター「京」が設置されるなど、ポートアイランドに多くの研究施設や企業を集めました。また国際交流の要となるインフラ整備として、２００６年には神戸空港も開港されるなど、莫大な投資が行われました。このような中でＫＩＦＭＥＣが構想されたのです。生体肝移植は脳死肝移植が根付かない日本で独特に発展した治療法ですが、その第一人者の元京都大学教授の田中紘一氏を中心として、三井物産が間接的に資金を提供して病院が作られました。アジアから移植患者を集める医療ツーリズムを目指したものですが、残念ながら開院以来多くの死亡患者をだしてしまった訳です。病院側は他の病院では困難な手術をしているからであると主張していますが、専門学会からは体制の不備を厳しく批判されています。ＣＤＢの小保方晴子氏によるＳＴＡＰ細胞騒動や利用が低迷する神戸空港など神戸市の目論みは大きく外れているようです。今回の騒動も神戸市には寝耳に水でしょうが、自業自得に思われます。

病気の知識：胆管の病気：② 総胆管結石

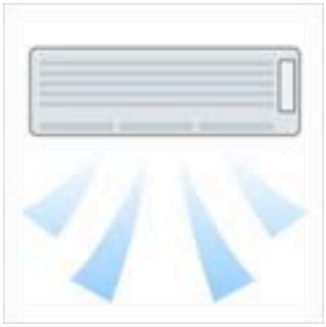


総胆管は肝臓と十二指腸を結ぶ管で、肝臓で作られた胆汁がここを通って十二指腸に流れ、消化の一助となっています。この管にも胆嚢結石と同様に石が生じることがあり、総胆管結石と呼ばれます。結石が胆管を塞いで詰まってしまうと急性胆管炎を引き起こすことがあり、発熱・黄疸を生じたり、時には細菌が血流に入って敗血症から死亡に至ることもあります。以前は総胆管を切開し、結石を除去してチューブを挿入する手術がよく行われていましたが、最近では口から入れた内視鏡を用いて十二指腸から結石を取り除く方法が主流となっています。

医院よりのお知らせ

①熱中症に気をつけましょう！！

今年も暑い季節がやって来ました。この時期に気を付けなければならないのが「熱中症」です。最近はテレビや新聞でも盛んに取り上げられていますので、皆さんもよくご存知のことと思います。熱中症は気温が高い時や激しい運動などで体内にたくさんの熱が発生すると起こり易い病気ですが、時には屋内でじっとしていても起こることがあります。症状は軽い場合には手足の筋肉に痛みを伴う痙攣が起こる程度ですがひどくなると目眩・頭痛・嘔吐などが起こったり、極端な場合には意識をなくして死亡してしまうこともあります。熱中症を防ぐためにはしっかりと水分を摂り、暑さを避けることが大切です。今夏は関西電力がまた値上げを行う予定ですので電気代は気になりますが、命には代えられません。扇風機やエアコンを賢く利用して室温が上がり過ぎない様に注意しましょう。また外出する時には日傘や帽子を忘れず、こまめに休憩をとる様に心掛けて下さい。水分は室内でも外出時でも、喉が乾かなくてもこまめに定期的に摂って下さい。調子がおかしい時には我慢せず、早目に医療機関を受診しましょう。



②お盆休みに関して

８月のお盆休みは例年通り、８月１３日（木）～１５日（土）の３日間の予定です。日曜日がありますので実際には４日間となり、ご来院の皆様には大変にご不便をおかけし恐縮ですが、どうかご了承願います。

日	月	火	水	木	金	土
9	10	11	12	13	14	15
休診	診療	診療	診療	休診	休診	休診
16	17	18	19	20	21	22
休診	診療	診療	診療	診療	診療	診療

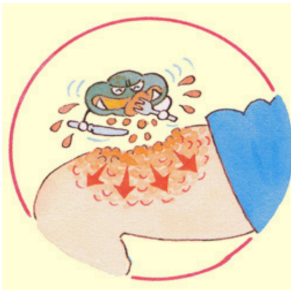
今そこにある危機：⑮ 社会保障改革

安倍首相が座長を務める政府の経済財政諮問会議で、財政健全化計画が決定されました。日本の財政状況は先進国で最悪と言われていますので、財政健全化が必要なのは明らかです。ただ財政再建というと、どうしても歳出削減すなわち社会保障削減に結びつき、懸念されていました。事実、財務大臣の諮問機関である財政制度等審議会や自民党の財政再建に関する特命委員会などは医療を含む社会保障に対して、一層の国民負担の増大を主張していました。幸いなことに今回の計画では、小泉政権が行った様な一律の社会保障削減は回避され、高齢化に伴う医療費の増加もある程度は容認されています。但し現在の好調な経済が継続することが大前提ですので、経済が失速した場合には非常に厳しい状況になりかねません。社会保障を維持するのか、あるいは抑制するのか、国の将来を見据えて国民一人一人が真剣に考える必要があります。

GSC
合田外科新聞
ホームページ　www.godageka.jp
ブログ　www.kiyoshi-goda.cocolog-nifty.com/jp

平成27年10月
第74号
合田外科
TEL　0797-71-2132
FAX　0797-74-1430

最近の話題：人喰いバクテリア（菌）



最近、人喰いバクテリアの話がマスコミでしばしば報道されています。昨年の患者数が２７３人だったのが、今年は８月で既に２７９人に達し、過去最高の勢いになっているそうです。恐ろしい名前のバクテリアですが、いったいどんな物でどんな病気を引き起こすのでしょう？原因菌は「Ａ群溶血性連鎖球菌」という物で、実はありふれた菌でそこら中に存在しています。エボラウィルスのように特殊な物ではありません。時に小児で風邪様の症状を引き起こしますが、通常は命に関わる事は無く、普通の人の皮膚に住み着いている菌です。しかしこのありふれた菌が稀に重症化し、感染した場所が壊死になるため、あたかもバクテリアに喰われた様に見えるのです。発症する場合は、皮膚を引っ掻いた、物が刺さった、火傷を負った、虫に刺されたなど皮膚に出来た傷が原因となる事が多い様ですが、皮膚表面の傷だけで無く、青痣や捻挫など傷の無い外傷でも発症する事があると報告されています。特に注意すべきなのは、免疫力が低下している場合（糖尿病・肝硬変・癌・免疫抑制剤使用等）、アルコールの摂取量が多い場合、妊娠中あるいは出産直後の場合、ウィルス（インフルエンザ・水痘等）に感染している場合と言われています。菌が感染し重症化すると、手足などの感染部位にまず強い疼痛と熱感が生じ、次いで水泡化し、やがて皮膚が黒く壊死してしまいます。このような重篤な変化が非常に速いスピードで生じるのです。残念ながら確実な予防法は無く、一般的な対応としては傷を清潔に保って菌の侵入を防ぐ事を心掛けましょう。万一発症してしまった場合には、患部（壊死部）の切断が唯一有効な治療法と言えます。菌に対する抗生物質は勿論投与しますが、抗生物質単独で救命することは困難です。致死率は３０％程と報告されていますが、四肢の切断で救命しうる四肢感染に比べ、切断できない腹部や背中などへの感染ではより致死率が高いと推測されています。このように発症すると恐ろしい病気ですが、通常は人から人に感染することは無いと言われており、最近になって報告が増加しているのは、これまで見過ごされていた物が認識される様になったきたからかもしれません。

病気の知識：皮膚の病気：① 皮脂欠乏症

皮脂欠乏症は皮膚の表面の脂が減少することによって皮膚の水分が減少し、皮膚が乾燥する病気です。皮膚がカサカサし痒みを伴い、掻くと湿疹になったりもします。空気が乾燥する秋から冬に症状が出始め、真冬にひどくなりますが、夏場は軽快することが多い様です。普段からの注意として、ゴシゴシ体を洗い過ぎない事、部屋の乾燥に注意する事、できるだけ掻かない事、刺激の少ない下着にする事、アルコールを控える事などが挙げられます。保湿の為のクリームやローションを使用するのも有効ですので、皮膚が乾燥してお困りの方は御相談下さい。

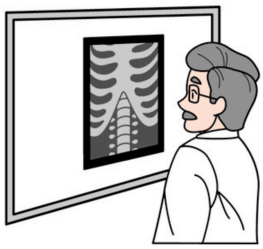
医院よりのお知らせ

①インフルエンザワクチンのお知らせ

今年もインフルエンザワクチンの季節がやって来ました。例年通り１０月１５日より接種を行います。従来、インフルエンザワクチンは３価ワクチンといって、Ａ型ウィルス２種類、Ｂ型ウィルス１種類の計３種類のインフルエンザウィルスに対して作られていました。しかし近年Ｂ型ウィルスに感染する例が増えており、今回からＢ型ウィルスも２種類に増やして、計４種類のインフルエンザウィルスに対応したワクチンが使われます。それに伴いワクチン接種料も改定され、６５歳以上の公費負担の方も自己負担が１０００円から１５００円に値上がりすることになりました。申し訳ありませんがご了承をお願い致します。一般の方の任意接種の料金は以下の表の通りです。なお西宮市等の近隣市にお住みで市役所で証明書をもらってきて下さった高齢者の方は１５００円の負担金で接種を受けることができます。また６０歳以上で特定の疾患をお持ちの方（身体障害１級等）の場合にも１５００円で接種可能な場合があります。

	接種回数	１回目料金	２回目料金
６５歳以上	１回	１５００円	
１３歳以上６５歳未満	１回	３５００円	
５歳以上１３歳未満	２回	３５００円	３０００円

②肺がん検診再開



７・８月と休止していた宝塚市肺がん検診が９月より再開しました。９・１０・１１月の３ヶ月が検診期間となっていますので、まだお済みでない方はお早目に受診をお願い致します。４０歳以上の市民が対象で、宝塚市国民健康保険加入の方や７０歳以上の方、また市民税非課税世帯の方は無料で受けることができます。レントゲン写真は宝塚市肺がん読影委員会で専門の医師が再度チェックを行い、より正確な検診を志しています。

③当院元院長（合田隆一）死去

元院長の父、合田隆一が８月２２日、永眠致しました。ご来院の皆様には大変お世話になり感謝しております。なお新年のかかりつけの患者様への年賀状は控えさせて頂きます。ご了承下さい。

今そこにある危機：⑯ 現代版姥捨て山

先頃、日本創成会議という民間の団体が「東京圏高齢化危機回避戦略」と題する提言を発表しました。東京圏では２０２５年までの１０年間に高齢者が急増し、医療も含めて高齢者用の入院・介護施設が圧倒的に足らなくなると試算されています。現在、日本全体で施設から在宅へと医療・介護を変えていこうという流れがあり、本来なら東京圏でも在宅ケアにシフトすべきなのですが、今度は人手が全く足りなくて対処できないと言うのです。そこで出てきたのが、医療や介護が充実している地方に移住しましょうという話ですが、用のなくなった高齢者は地方に行けと言っているのも同様で、まさに現代版姥捨て山の如しです。この団体、民間団体ではありますが、元総務大臣の増田寛也氏が座長を務めており、政府の地方創成政策に影響が強いとも言われており、きな臭い限りです。

合田外科新聞

GSC

ホームページ　www.godageka.jp
ブログ　www.kiyoshi-goda.cocolog-nifty.com/jp

平成28年1月
第75号

合田外科
TEL　0797-71-2132
FAX　0797-74-1430

最近の話題：日本の医療は安泰か？

日本は国民の全てが何らかの医療保険に加入しており、病気や怪我などで困った時には、「何時でも」「誰でも」「何処ででも」医療を受けることができます。これは「国民皆保険」と呼ばれる制度で、日本の医療保険の大きな特徴となっています。この国民皆保険の成果は、公平性を高めながら低コストで良好な健康水準を実現したことで、最も判り易い指標としては平均寿命が挙げられます。以前は先進国の中で最低であった日本人の平均寿命は、現在では世界１位になっています。国民皆保険は１９６１年に達成されましたが、５０周年の２０１１年には、イギリスの権威ある医学雑誌ランセットが日本の国民皆保険の特集をし、その素晴らしさを讃えています。さて、このように「世界に冠たる国民皆保険」ですが、将来も安泰なのでしょうか？日本医師会を中心とした「国民医療推進協議会」が、日本の優れた国民皆保険の恒久的堅持を求める“国民医療を守るための国民運動”を展開していますが、前途は楽観できません。健康保険は本来、保険料を支払った人に給付が返ってくることが前提ですが、日本の健康保険制度は保険料だけでは維持できず、公費が投入されています。そして国家の財政が窮迫している現在、従来の様に公費を投入するのが増々困難になってきています。高齢化の進展と医療の高度化が医療費を押し上げる要因となっており、政府の試算によると現状のままでは団塊の世代が後期高齢者となる２０２５年の国民医療費は６１兆円、そのうち公費負担は２５兆円と見込まれています。このような状況下では現在のままの国民皆保険を維持するのは極めて困難です。先進国ではアメリカを除き、何らかの形の皆保険制度が採用されていますが、日本のようにフリーアクセスが保証されている国は珍しいと言えます。例えばイギリスでは、まず最初に決まったかかりつけ医を受診しなければ、専門医の診察を受けることはできません。日本の国民皆保険は①フリーアクセス、②安価な医療費、③高度な医療というキーワードで特徴づけられていますが、制度を維持するために、これから何を残し、何を我慢するのか、医療者のみならず国民全体の議論と覚悟が必要だと思われます。

病気の知識：皮膚の病気：② 鶏眼

鶏眼は俗に「ウオノメ」とも言いますが、大人の足の裏や足の指などの皮膚に出来る、直径数ミリから数センチの硬い病変です。歩く時や圧迫された時に強い痛みが生じることがあり、しばしば悩みの種となります。同じ場所に繰り返し圧力がかかることによって皮膚の角質が分厚くなり生じます。鶏眼に対してはスピール膏という角質を柔らかくする貼り薬を数日間貼り、その後、ハサミで可及的に切除します。うまく取れると驚くほど痛みが和らぎます。但し、鶏眼は歩行の癖が関係していることが多く、よく再発します。根本的に治すのは難しいので、上手につき合っていきましょう。

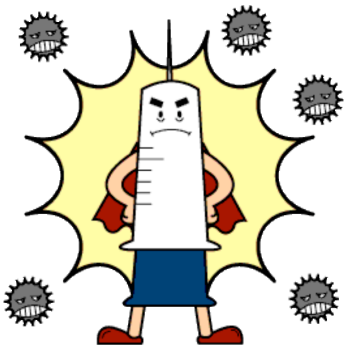
医院よりのお知らせ

①新年のご挨拶

皆様、昨年は大変にお世話になり、ありがとうございました。本年もどうか宜しくお願い申し上げます。本来でしたら、かかりつけの患者様には年賀状をお出しし、直接にご挨拶を申し上げるのですが、昨年８月に当院の名誉院長である父が他界しましたので、今回は控えさせて頂きました。ご了承下さい。父への追悼を述べさせて頂きます。昭和５４年に当院を開設して以来、父はずっと働きづめでした。当時は現在ほど医療機関がなく、また当初は救急も受け入れていましたので、殆ど家にも帰って来ないような状態でした。丁度、私が中学校に入学した時で、随分としんどかったのでしょう、時々弱音もはいておりました。それでも、昔からの患者様はご存知かと思いますが、現場が好きで、患者様との触れ合いが好きで、父にとって合田外科での仕事は天職だったかと思います。それが平成５年に突然の脳梗塞で倒れてしまったのはあまりに残念でした。幼い頃に両親を亡くし、大病を煩い、また次男にも先立たれ、決して順風満帆な人生ではありませんでしたが、晩年は心穏やかに家族とゆったりとした時間を過ごすことができたのは幸いでした。私は父の頑張りには到底及びませんが、自分なりに何とかやっていきたいと思っております。

②インフルエンザ・肺炎球菌の予防接種はもう済みましたか？

今シーズンはインフルエンザの流行が例年に比べ遅いですが、年明けより流行が本格化するものと思われます。予防接種の効果が出るまでには注射後１ヶ月程かかりますので、まだインフルエンザの予防接種がお済みでない方はすぐに受けるようにしましょう。高齢者が１５００円で受けられる定期接種は１月末までですが、任意での接種はそれ以降でも可能です。もし期間内に受けることが困難な方はご相談下さい。またテレビＣＭに西田敏行さんが出演していますが、一昨年より肺炎球菌の予防接種が始まり、該当の方にはクーポン券が送付されています。肺炎は日本人の死因の第３位で、高齢の方では命に関わりますので、是非とも受けて下さい。月末までとなっています。今回クーポン券が届いていない方でも、実費による接種は可能です。



今そこにある危機：⑰ ＫＩＦＭＥＣその後

第７３号（平成２７年７月号）の当新聞の「最近の話題」欄で特集したＫＩＦＭＥＣ（神戸国際フロンティアメディカルセンター病院）のその後の経過が判明しました。ご存知の様に、生体肝移植専門病院として発足後に多数の手術死亡例をだした同病院ですが、専門学会を初め各方面からの強い批判によって、一旦、体制見直しのために手術は中止していました。行政の改善指導により体制を立て直したとして、１０月より手術は再開されましたが、外来・入院患者数が開院当初の予想よりも大幅に下回ってしまい、事業継続が困難となりました。またこれに先立ち、今年の８月にはシンガポールの拠点である移植専門クリニックも閉鎖されています。このようにアジアの富裕層をターゲットとし、移植という高度医療を餌にした、経済的利益優先の移植ツーリズム構想は潰えました。医療で金儲けを企んでいる人々には残念なことでしょうが、そうは問屋が卸しません！！